令和8年10月22日

職員各位

市　　長

# 令和9年度予算編成における基本的な考え方

本市を取り巻く社会経済情勢は、長引く物価高騰や金利上昇の本格化などにより、市民生活や地域経済への影響が継続しています。また、全国的な労働力不足が深刻化する中、自治体においても人材確保や業務の効率化が急務となっています。さらに、昨今の大雨や地震といった自然災害の激甚化への対応や、デジタル技術・AI の急速な進展への適応、特に、頻発するサイバー攻撃による情報流出への備えなど、地方自治体に求められる役割はますます複雑化・多様化しています。このように自治体を取り巻く環境が目まぐるしく変化する状況にある中でも、安心・安全な市民生活を最優先に、日々懸命に業務に取り組んでいただいている職員の皆さんの姿には、心強さを感じています。

これから始まる令和9年度の予算編成は、本市の最上位計画である「龍ケ崎みらい創造ビジョン for2030」の後期基本計画期間がスタートする年度でもあり、極めて重要な予算編成となります。「未来創造」、「魅力創造」、「幸せ創造」の3つのリーディングプロジェクトの更なる推進はもちろん、前期基本計画の成果と課題を客観的に検証・総括し、後期基本計画に掲げる施策やアクションプランに位置付けた政策的事業へ戦略的かつ集中的に経営資源を投入することで、本市のあるべき姿の実現に向けて、新たなステージへと着実に前進する予算編成とするよう取り組んでください。

これまで実施してきた大型建設事業がひと段落し、今後は、公共施設やインフラの老朽化対策の重点的な取組み、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進による市民サービスの向上と業務効率化など、行政経営の基盤をアップデートする事業も継続して進める必要があります。

様々な事業を推進し、将来にわたって持続可能なまちを築いていくためには、強固な財政基盤の確立が不可欠です。ふるさと納税をはじめとする自主財源の積極的な確保や、PPP や PFI など、公民連携による民間活力の導入など、創意工夫による新たな財源・資源の確保と同時に、大胆な事務事業の見直しなど、既存事務事業コストの削減と経営資源の最適化といった収支両面での取り組みを継続的に実行していかなければなりません。

職員の皆さん一人ひとりが、前例踏襲を排し、市民目線で、あらゆる施策や事業を通して、市民の皆さんが幸福を実感しながら笑顔で暮らし続けることができるまちの実現に向けて、使命感をもって業務に取り組んでいってください。

職員の皆さんには、一人ひとりの知見やアイデアを結集し、チームワークを存分に発揮され、市民のため、龍ケ崎の未来のための思いが詰まった予算とされることを期待しています。